

ある本を読んでいたらジェンダーという言葉が気になった。

女らしさ、男らしさ、男女の役割分担などの文化的、社会的、心理的な性のあり方のこと。その程度でやめておけばいいものを、時として押しつけのようなものになる（ジェンダー規範）。要するに男女差別をさす言葉である。

社会生活において男女の役割分担みたいなものがはっきりと決められている。つまりどういうことか……。昔的な感覚で、ご飯作りは女性、力仕事は男性、裁縫は女性、などなどであろうか。ある場面場面で男女の扱いが異なっていく、つまりジェンダーバイアスと呼ばれる現象があらわれる。こうしたことが最終的に男女間の不平等や偏見、差別を生んでしまう事につながっていく。

以前、話題になった相撲の土俵の上に女性は上がってはいけないというのは、昔からの習慣・文化なのだがこのジェンダーにあてはまる。また、あるいは競技によっては男性にあって女性にはない種目とか、その逆もある。そういう種目を一緒にすると体力的な差が顕著に表れる。その時は男女別々の競技内容で行う（これは差別でなく区別である）。このようにスポーツの中にはジェンダー規範やジェンダーバイアスが根強く残っている。

こうしたジェンダーにとらわれることなく個人の能力を最大限に発揮しながら生活していこうとする（男女共同参画）流れがある。

さて、飛び込みの場合はどうであろう。飛び込みの競技の中にジェンダーという事があるのだろうか。私は、まだジェンダーという言葉を把握しきれないものがある。男子、女子の競技が別々に存在するし、別に押し付けるようでもなく、扱いも異なるものでもない。したがって、男女間の不平等というものがない。やはり飛び込み競技の中にジェンダーがあるという事があっていない。存在しないのである。存在するのは男女共同参画の流れをくむ、つまり個人・選手の能力を最大限に発揮しながら生活・試合していくものがある。

飛び込み競技が、ジェンダー規範やジェンダーバイアスに巻き込まれないように、我々一人ひとりがジェンダーを含むあらゆる差別に対し、それ相応な対応ができるように目を肥やしていくことが大切である。

（2011、3・9）